

## 業界から一言

景気回復の波に乗る会社と乗れない会社との格差鮮明  
設備投資を行った者で行えない者との間に受注量に大きな格差(繊維工業)

設備投資が活発な液晶関連業界は機械発注後、完成まで2年半待ち(金属製品製造業)

プラズマや液晶テレビなどデジタル映像関連家電が好調、全出荷額の45%を占めるが販売比率は量販店が70%、地域小売店が30%と格差が大きい(機械器具小売業)

景気回復ムードが高まり、高価格帯の車種の売れ行き好調、軽自動車以外の小型車苦戦(自動車小売業)

新規競合店がオープンしたことにより、既存店の宿泊客減少(宿泊業)

原油価格、原材料価格共に高騰の影響を受け、収益性悪化

製造にかかる燃料費が昨年 비해倍増、包材、ダンボール、アルコール、そば粉、砂糖など値上げ、小売価格に転換できず、収益性が悪化(食料品製造業)  
化学薬品や重油を多く使う織物整理・染色(会社)の加工賃が値上げされる懸念あり。またボタン類、繊維製品材料の値上げにより収益性が悪化(繊維工業/繊維製品製造業)

用紙やインクの上上がり懸念、先行きに不安感(印刷業)  
金、銀、プラチナ等の地金が

昨年度対比で1.5倍、販売価格も上昇しており、消費マインド低下(傾向)貴金属製造(卸売)  
燃料費、水道光熱費が増加し収益性が悪化、燃料の利用量の低下による売上減少(食料品・自動車・石油小売業)

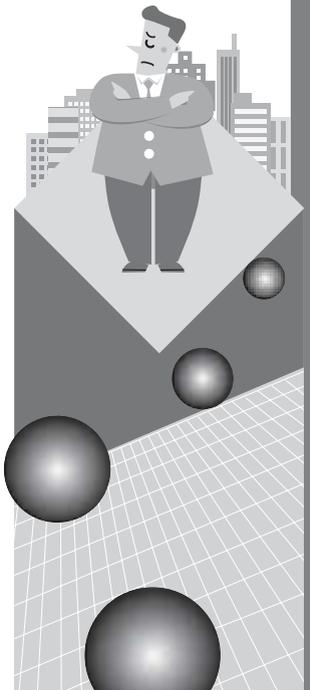
各種部品、油脂類単価上昇により収益性悪化(自動車整備・道路貨物・旅客運送業)

## ピックアップ

地金、鉄鋼など原材料高騰さらに非鉄金属は需給の逼迫から調達難

貴金属製造業及び宝飾品卸売り業界では「金・プラチナ等地金の価格が高止まり(昨年同月比1.5倍)の影響によって小売販売価格が上昇、消費者の買い控えもあり、受注量低下、生産量を調整しており、在庫量も低下していること。

機械器具製造業界では「銅は前月と対比して85円/kg値上がり、アルミニウムは20円/kg値上がり、ステンレスは来月80円/kg値上がりすると言われている。材料メーカーは日常的に販売する先を優先として材料供給を行っており、材料調達においては完全な売り手市場、材料調達ができずに受注を断ることもある。また、受注する機械器具の販売価格に材料費の上昇分を全て転嫁することができず、製品は買い手市場。



山梨県中小企業団体中央会  
情報連絡員報告  
(平成18年6月分)

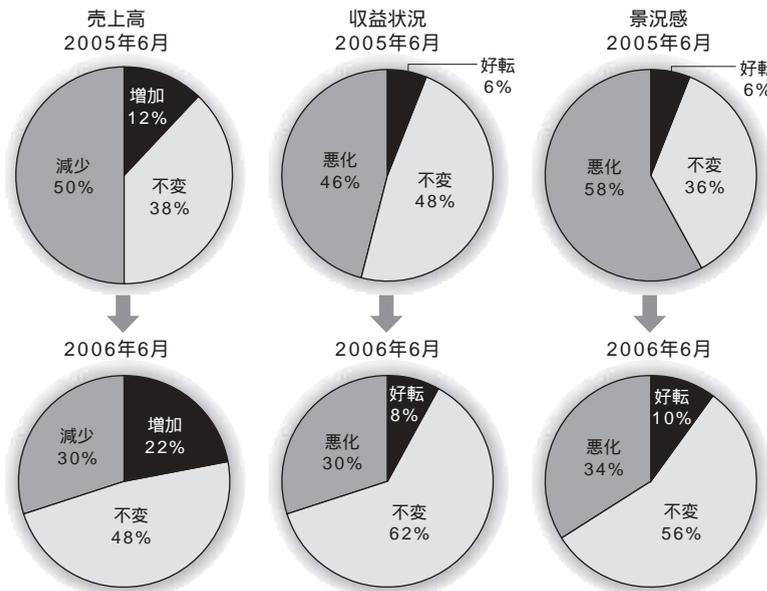
## ▶ データから見た

# 業界の動き

前年同月の各業界のDI値は、「製造業」では業界の景況がプラスに転じ、売上高も5ヶ月連続してプラス値を示しており、持ち直しの動きが続いている。

「非製造業」においては業界の景況及び売上高がやや悪化した、収益状況が回復傾向にあり、全般的には回復の動きが見えつつあるといえる。

しかし、個々のコメントから企業間格差が多く、業種で拡大していることが伺え、さらに原材料の高騰、原油価格の高騰に伴う影響を直接受ける業界では、今後収益性の悪化が懸念され、今後景気回復感に陰りが出ることも予想される。



その狭間におかれ、なんとか経営を安定させるために利益確保を考えてはいるが、あまりにも早い値段の移り変わりや材料調達

が困難なことから、結果的に利益が確保できれば良いと考えざるを得ないのが現状、まともな商売をしているとは言えない、さらに工事業界でも「工事にかかる鉄や木材が高騰、鋼材はパブル期以上の高値(日鋼は8万円/トン)で推移しているが、受注単価に転嫁できず、仕事はあっても収益が好転しない」と報告。  
総じて原材料の高騰が収益を圧迫している状況であると言える。